

## 第 32 計 ; 上昇志向が高い。(中華思想その 4)

### — 「中華思想の上昇を抑えるには儒教教育」 —

中国人の上昇志向に私が吃驚（びっくり）するのは、例えば、中国人の散髪屋さんに行って日本のケーキを食べさせてあげるとする、途端にその散髪さんは「私は明日から日本のケーキ屋に変わりたい。」と言い出すような極端な変心をする点であります。

中国人に日本の情報を出すとまるで私が 55 年前日本で経験した小学校の運動会での“パン食い競争”のように、中国人の心理がコロコロと変わります。（下記の写真右はインターネットの動画をから拝借いたしました。）



しかしながら、腰の据わった時間のかかるビジネスを中国人は求めていません。いくら日本の素晴らしい商品でも、またいくら親日派の中国人に対しても、商品を説明・説得するのに一年を超えるような「時間がかかるビジネス」は嫌われるのであります。

中国の散髪屋が日本の散髪屋さん和交流したいと言えば私も協力できるが、中国の散髪屋（中国人）さんが「明日から日本のケーキの販

売をしたい」には私も参りました。日本のケーキ店を紹介できる訳がありません。

また中国人の上昇志向は上向きだけでなく、横幅も広がります。農村でも隣人が留守だと自宅の面積を少し拡張する計画を建てる。自分の自宅にはあるが隣にはない植物の種を隣人の留守中、無断で植えたりするのであります。暫くたって植物の芽が出てきた時、必然的に境界トラブルが発生するという経過を辿（めぐり）ります。

国もどこまでも拡大を求める。“一人っ子政策”をしても人口は増えつづける。海外では“一人っ子政策”は適用されず国際結婚も群を抜いていることもあり、世界中のどの国、どの地域でも中国人の人口は増えるのであります。私は中国の公表人口は 13 億人と言われているが、海外の中国人迄入れると 15 億人は超えていると思います。何故なら 6 年前に中国の人口は 14 億人を超えているという話を私は中国の高官から直接聞いております。中国には、戸籍のない“黒戸籍”の人が約一億人いるとのこと。 “中国人” と “中国人民” は違うという事です。現代中国にはいかに浮浪者等が多いかという事です。

世界人口の四人に一人が中国人であります。そんな中国人は誇り高き中華思想を持ち自己中心主義であります。

また “華人” と “華僑” は違います。“華人” とは正式に日本人と

結婚して中国国籍を離れ日本国籍を取得した人、また日本で永住権を取得した人も華人です。本当に日本の法律を順守し日中友好を考え、中国人の誇りを持っている人なのです、特に成功した人は誇りをもって中国の故郷に成功者としての錦（にしき）を飾れます。従ってお土産をたくさん買って帰ります。成功しなかった人は、中国に帰っても故郷に帰れないのであります。別の地域に行きます。誇れないからです。

日本人でも太平洋戦争前、アメリカに移住した日本人の中に、アメリカ軍の兵士となり第二次世界大戦で参戦した日本人はたくさんいます。その人達のお蔭でその後日本人はアメリカ人と対等に交渉が出来るようになりました。時の大統領はルーズベルトで、日本人のアメリカ兵の前で感謝の意を表明しました。日本人のアメリカ兵はイタリア戦線で“武士道精神”を発揮し勇敢に戦ったのです。武勲（ぶくん）を上げたのであります。その後“JAP ジャップ”と蔑（さげす）まれていた日本人は白人と同等の市民権を得たとの説があります。戦後結ばれた“日米同盟”には戦時中アメリカにいた武士道精神のある人達の魂があったことを今の政治家は忘れているのではと悲しくなることがあります。

初めて日系二世の子供として、アメリカの上院議員になったのは“ダン井上氏”です。80歳を超えて今回の選挙でアメリカの民主党不

利の中にあつて、ハワイではダン井上氏が楽々と再選（任期6年）されたのです。彼は48年間上院議員であります。ハワイは米本土とは違い、民主党の地盤です。今回も上院、下院（2名共日系人女性）、知事は民主党です。

ダン井上氏のハワイ自宅はワイプナにあり最初に土地のリース権（借地権）を約12万ドルで購入。後に底地権を約3万ドルで取得したとのことです。

彼は数年前に奥さんをガンで亡くしました。現在は日系人女性と再婚しています。彼がハワイに貢献した業績は多大なるものです。最近彼の尽力によりハワイ大医学部に最新のがんセンターが建設されるとのことです。

彼は80歳以上の高齢者ですが、孫文の孫もハワイに居ます。ハワイの王は昔、「日本の皇族の娘と結婚したい」と願ったが誰も名のり出なかったので、断念したといわれています。

私が、中国の次ぐくらいに好きな南国の楽園の話であります。

ところで“華僑”とは、過去に中国から何らかの事情で国籍を中国に置いたまま逃避して日本国籍を取った人達も存在し、一般に知られる“交易をする人”に加えて、この“二重国籍者”のこともさします。

従つて、昔は、この二重国籍者は密かに中国の故郷に帰国したもの

でありました。しかし最近、中国本土では、華僑はお金持ちとして歓迎されることが多いようであります。

私は文化大革命で宗教もろとも破壊された中国人の“心の傷”は、国境を越えて世界の人達が愛の手を差し伸べなければ、その心は変わらないと思います。

またまた話は飛びますが、中国の雲南省の少数民族の住む昆明の近くに、私が少し安らぎを感じる地域があります。“シャングリラ 桃園（とうえん）” 理想郷の意味です。日本が中国人にとっては理想郷なのです。



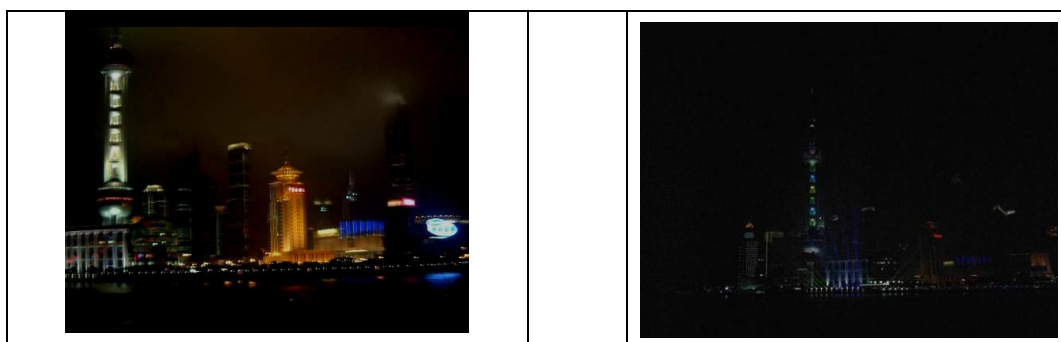
また雲南省の麗江には京都の祇園を彷彿させる場所もあります。



しかし時折、中国の都会にいと、私は日本に帰りたくなる。日本人に戻りたくなる時があるのです。上海の夜景は綺麗だが“安らぎ”

がない。人が多すぎるのかもしれない。私の“負けん気過大症”が原因なのかも知れない。上海は毎年 100 万人ずつ人口が増えているそうです。

中国人は日本人と比べ睡眠時間が長い人（昼寝を加算すると平均 10 時間）が多いといわれます。その習慣を忽ち変えることができない彼らの大躍進を見るに、所謂先進国に対する遅れを釈迦利器に取り戻そうとしているのかも知れない。また、歴史の遅れも取り戻そうとしているのかも知れない。私もなんとか中国人に理性的な長期交流をしたいと考えていますが、「何故中国人が現在の自己の行動に将来の滅びが見えない先見性のなさ（暴（ば）れなかつたら得という気持ち）があるのか」と・・・、私には俯瞰的概念と“心眼（童話の裸の王様の子供の目、無欲心）”があるのに“良心のない言い訳”を聞くと、上海の夜景が深まるに連れ孤独感と寂しさを感じるのであります。



中国人の高層部・上層部の親が、その子供に教育をつけるため海外

留学をさせ、更にその子供に一億円のマンションをロンドンに出向き  
買い与えたという事例があります。これが“貧富格差”が激しいとい  
われる中国の超上層部の例です。一方、田舎の学生（数学の試験で金メ  
ダルを取得した学生）が中国都市部で就職先がなくて学生デモをしてい  
ます。

「縦糸」は“貧富差”、「横糸」は“能力差”、更に“蔑視の対立”  
が拡大しているのが、現在の中国なのであります。

最近、日本国籍を持つ私の関与先の中国残留孤児の子供で優秀な貿  
易商が久ぶりに事務所に来ました。

彼の話によると、現在中国の新聞紙上で一番有名なニュースは“日  
本の尖閣諸島問題”ではなく、河北省のある警察の副局長の息子が二  
人の人を車で轢（ひ）き殺したとのことです。逮捕された息子は逮捕  
した警察官に言ったという。「私の父は誰だか知っているのか？李剛  
だ。」と高圧的に言ったそうです。それで、取り調べた若い警察官は  
徹底的に調査したとのことです。副局長の父は子供に外車の最  
高級車を与え、北京と上海にマンションを5つ所有していることが判  
明しました。公務員の給料ではそれだけの資産を持つことは異常であ  
ります。“権力の乱用”と言う事で、“親子共”死刑にすべきかが大ニ  
ュースです。また、父親が逮捕されると警察署の幹部が全員逮捕され

るかも知れない。というビッグニュースです。

中国の教育者でも学校で正規の授業時間では余り熱心に子供に教育をせず、時間外に 30 人位を集めて補講で教えていると、中国人の教育熱心の親は仕方なく 100 元支払うとのこと。日本にも 50 年程前、確かにそういう時代がありました。

ところで、私が中国にいきますと、北京・上海の立派な“完売マンション棟”といわれるマンションに明かりがないのに以前から気付いておりました。中国の知人に聞くと、地方の人が買っているらしいとのこと。実際役人が車を 3 台所有しており、マンションを三つ持っているというような話はとても多いです。私は明らかに“賄賂で購入したマンション”と理解しておりました。

地方の役人の“賄賂”が中国経済の GDP に寄与しているのはおかしいと思います。中国政府が没収して、中国の恵まれない人達に、再配分すればよいのではないのでしょうか。

中国人の上昇志向は「欲望が増殖する」と表現することができます。例えば一つプラスを与えるとすぐに二つ目を求める。二つ目を与えるとすぐ三つ目を求める。階段に踊り場（一息入れる休憩場所）がないような感じです。“ハングリーさ”がそうさせているのかどうかよく解りませんが、中華思想の自己中心主義というには、“愛の欠乏症”が



発症しているのかもしれないと思われます。

私は初めのうち、強い好奇心により中国各地を周（まわ）ったものですが、最近では発展する中国のどこを歩いても日本のように“心の安らぎ”を感じられるような場所が殆どないと感じるのです。

“警察副局長の息子事件”につづく二番目に話題の中国のニュースは、中国人の旅行者が福岡等で、日本の右翼の人達に取り囲まれ、観光バスのタイヤを蹴られたり等“中国人にとって日本は怖い国”という報道であります。事実、北京・上海の中国旅行社の広告から日本への旅行が外されました。日本政府は急遽、中国の学生 35 人を招待し 11 月 30 日に日本の官房長官が会うとのことです。このようなニュースは日本のテレビで余り放映されていない。「日本にも言論統制があるのか」と疑いたくなる今日この頃であります。

官房長官といえは、皆様は日本語の“恫喝”と“一喝”は違うことをご存知でしょうか。“恫喝”は本来「弱者が強者等に言う」言葉であり、“一喝”は「真の強者が生意気な強者にいう」言葉です。“一喝”は第 35 計で予定するヨーロッパのスパルタ国の“IF”の言葉と同じで武士道精神に関連します。

先ほどの警察副署長の子供の交通事故であれば、武士道精神を持つ

た江戸時代の父親であれば、道理の解からない子供を刀で切り殺すかもしれません。余りにも世間に迷惑をかけすぎると。父の心は、家名断絶の覚悟であります。そのあと、父は自らの失敗（日本の武士道精神を子孫に伝えられなかった。）ということ、先祖に報告し、仏壇か墓前で“自らの教育方針の失敗を”介錯（かいしゃく）人のいない割腹自殺（切腹ではない、切腹には本人を苦しめさせない為、すぐに刀で首を斬る介錯人が居る儀式です。）で償います。武士道精神を持つ男性の“本当に情けない、先祖に対して本当に申し訳ない”事態に遭遇し、自らの落ち度を認め、出来る限り自分を処罰する時、“割腹自殺”行うのであります。

このたびの“尖閣諸島のビデオ流出報道”を見て、今の日本国政府は“守秘義務”の前に“無防備過ぎる”と言わざるを得ないと思います。余りにも危機管理がなく腹のある・武士道精神のある政治家が少なすぎると感じた次第であります。

語学力のない国内だけの弁護士が国際政治を主導してはいけません。“政治家は結果責任”が要求されて当たり前です、官僚等の行政職は“遂行責任”が求められます。本来、経験のある政治家は清濁併せのみ込む度量をもった「儒教を源泉とした武士道精神」をもった「愛国心と仁愛のある人」が政治家であるべきであると私は思います。

日本国の領土には国（公）有地と民有地があり、土地の私的所有権

が法務局で誰でも閲覧できるシステムになっています。そこには、取得日と所有者が誰であるかが明記されています。然るに私は、日本の外務省がホームページで、日本語・英語・中国語・・・で法治国家としての“日本国の仕組み”と“歴史的事実”を世界に発信すべきであると考えています。余りにも日本国政府は世界に対し“広報”がお粗末すぎるのではないのでしょうか。寧ろ外務省より内閣府が発表した方がいいのかもしれませんが。

そもそも、明治維新を成功させたのは、郷士と呼ばれる下級武士達が、世界と対等に交流できる将来の日本を作るため、武士の棟梁である将軍が天皇に京都の二条城で“大政奉還”した“文明大改革”でありました。明治天皇の“王政復古”宣言の場所は山口県の“田伏（たぶせ）市にあるお寺”で記念碑もあります。岸首相、佐藤首相の故郷で、三条実美公もいました。側には伊藤博文記念館もあります。

1945年日本は太平洋戦争で敗れ、敗戦国になりました。意外にも日本人には「戦争に負けてよかった」という古老が多いようです。愛国主義的軍国主義が増殖したからです。敗戦後日本は民主主義な平和国家になったのであります。

しかしこれからは、せめて中国語の固有名詞をマスコミも中国語で言うて欲しいと感じます。例えば「中国の胡錦濤（こきんとう）所謂“hu

xing tao ” フシントオ” 国家主席が来日されました。」というように報道して欲しいのです。

漢字には”音読み”“訓読み”以外に“中国語読み”があります。私は日本人が苦手な中国語を覚える近道と思っています。中国語読みを2000字覚えれば中国語検定試験三級、3500字覚えれば中国語検定試験二級、5000字覚えれば中国語検定試験一級になるのです。

また、或る程度日本語ができる中国人が日本の小・中学校で国語の先生になれば、先生が子供に漢字を（音読み・訓読み・中国語読み）中国語読みの発音で教えることができます。逆に生徒が先生に日本語の発音を教えるというような、すばらしい“日中友好教室”が出来るような気がします。中国人は上昇志向が高く、漢字に関してとても達筆者が多いのも事実であります。

2010/10/24      2010/11/13